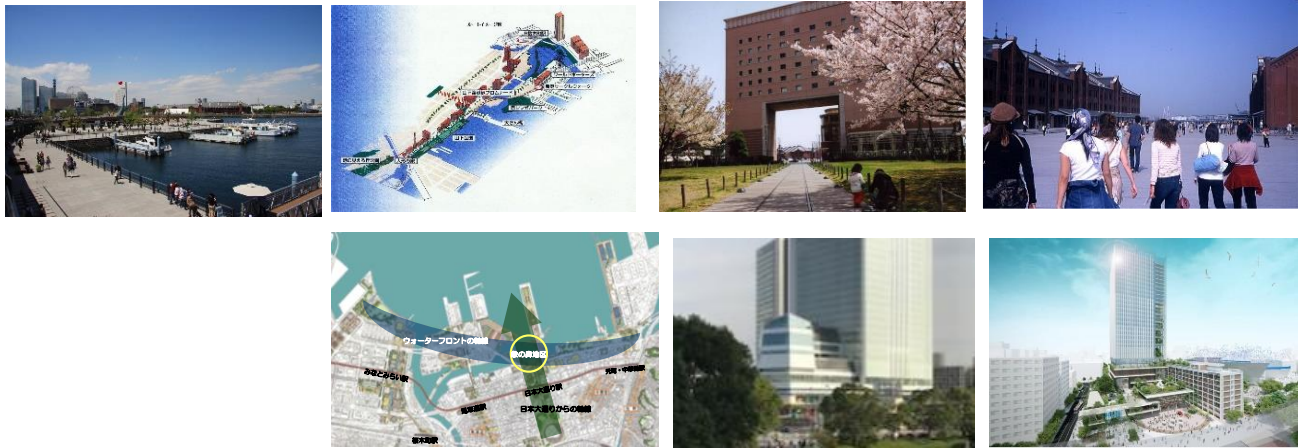




日本建築学会関東支部神奈川支所
2019 年度シンポジウム

「まちづくりと都市デザインの 50 年～横浜が残した価値とこれから、 日本の都市、アジアの都市は？」 アーバンデザイナー国吉直行と語る。

日時：2019 年（令和元年）11 月 22 日（金）18:30～20:30（開場 18:00）

会場：横浜市開港記念会館 1 号会議室

講師：国吉直行（アーバンデザイナー、横浜市立大学客員教授）

コメンテーター：

金子修司（建築家、（一社）神奈川県建築士会会長）、

吉田慎悟（環境色彩計画家、景観デザイン支援機構副代表理事、武蔵野美術大学教授）

桂 有生（アーバンデザイナー、横浜市都市整備局都市デザイン室）

入場料：無料

定員：60 名

申込：この用紙の末尾に氏名・所属・連絡先を記入して FAX(045-201-0784) もしくは、同内容を記載したメールをお送りください。m.matsumoto@kanagawa-kentikusikai.com

なお、定員に達してお断りする場合以外は、連絡は差し上げませんのでご了承ください。

主催：日本建築学会関東支部神奈川支所

後援：横浜市、（一社）神奈川県建築士会

（予定）（公社）日本建築家協会関東甲信越支部 J I A 神奈川地域会

（予定）（一社）神奈川県建築士事務所協会

□国吉直行プロフィール

■横浜市での活動(1971～2011、横浜市都市デザイン室員にて)、その後、(2006～、横浜市大教員として)

横浜市では、魅力的都市空間の形成、歩行者のためのまちづくり、都心部商店街の整備、夜景演出事業、開港記念会館や西洋館など関内・山手地区の歴史資産をいかした都心の再生、赤レンガ倉庫の保存活用、汽車道など新港地区の取組み、みなとみらい21地区の都市デザイン誘導等、40 年以上わたり都心部再生のための数多くの取組み、その他、港北ニュータウン整備、区の魅力づくりなどの成果を積み重ねてきた。

現在は、外部専門委員として都市美対策審議会委員や横浜市の現市庁舎街区活用事業審査委員会委員など多様な事業をサポートしている。また、韓国光州市、富山市でアドバイザー、横須賀市、鎌倉市、鹿児島県などでは審議会、委員会委員。

お名前	所属(勤務先・在学先)	連絡先(E-mail アドレス)

神奈川支所/2019 年度シンポジウム報告

日時：2019 年 11 月 22 日 18:30～20：45

会場：横浜市開港記念会館 1 号会議室

講師：国吉直行

コメンテーター：金子修司、吉田慎悟、桂 有生

参加者：60 名



*はじめに、福井支所長より海外視察・神奈川建築文化への貢献についての活動報告がなされました。

『国吉直行氏プレゼンテーション』（18：30～19：40）



*50 年にわたる実績に基づくプレゼは聞き漏らすまいと、心地よい緊張感に満ちていました。

(経緯)

- ・ 1971 年に横浜市企画調整室に都市デザインチーム（飛鳥田市長・田村明氏）が設置され、1982 年都市計画局都市デザイン室に発展し、組織は歴代 5 人の市長の下でも継続したことが横浜の都市空間づくり活動を推進・牽引できた。

(実践展開)

- ・ 実践のため、縦割り行政を横つなぎする「統合調整型実践都市づくり」を企画調整室の設置により可能にした。
- ・ 具体的な 3 つの取り組みは「公的プロジェクトのプロデュース」「開発のコントロール」「都市デザイン活動＝7 つの目標」とし、「都市整備の六大事業」、「宅地開発要綱」、「質の向上・個性の創出」へと展開したこと。
- ・ 魅力ある都市空間の創造として関内地区での実験的プロジェクトの紹介。
馬車道・開港広場・商店街の独立：伊勢佐木町/元町/中華街等
地区ごとに市民、商業者、建築家やデザイナーの参加による個性の育成を行った。
歴史的資産の活用として、洋館の購入や赤レンガ倉庫の管理を行った。
民間事業者の取り込み、景観論争では多様な意見を考慮・対応の一例となった。

(展開)

- ・ 国内外の都市と交流が行われている。
マレーシア、韓国/富山市、鎌倉市、鹿児島市

(成果)

- ・ 都市デザインを社会に広める役割を果たしたこと。
横浜型都市デザイン戦術（国吉流）の継承
/柔軟で臨機応変/つみかさね/多様性/メッセージ性,

『トークセッション』(19:55～20:25)各先生は 10～15 分程度コメントされました。



- ・ 吉田慎悟氏 横浜市 50 年の展開はしっかりとした蓄積が出来ている。（中国・韓国的短期的開発ではなく、ヨーロッパ的歴史を重ねた個性ある展開である。）
- ・ 桂 有生氏 次の 50 年へのトライアルの時期、公共空間は育てる空間である。
- ・ 金子修司氏 都市デザイン室の牽引が以前ほどでない。市民社会はまだ未成熟な部分がある。震災後のデザインに求められるものに対応必要。

『質疑』～20：45 室伏氏は2回にわたり意見を述べられた。



(室伏次郎氏) 次の50年の「夢」を考える上で水際都市横浜の「水際」の魅力が生きていないがどのように考えているか。観光中心で居住関連施設がまるでないこと、生活者のアクティビティが感じられないことは課題では？

(国吉氏) 水際空間は公共空間として捉えている。今後プライベート空間への展開も、例えば京浜臨海部で工夫が出来れば他を引っ張ることになる。

(井上憲司氏) 横浜を魅力的にするのに積極的にコンペをすることで「大栈橋」のように国際的な影響力を持つと考える。

(木下眞男氏) 都市のデザインは文化の発信で「交流」がテーマとなる。

『さいごに』

国吉氏

- ・デザイン室・企画室がコントロールタワーであったことが成果につながっている。
- ・今後は「プロデュース+市長」で方向を示すことになる。
- ・都市づくりの「クオリティ」は必須であるが、反面「雑然さ」的要素も必要である。